

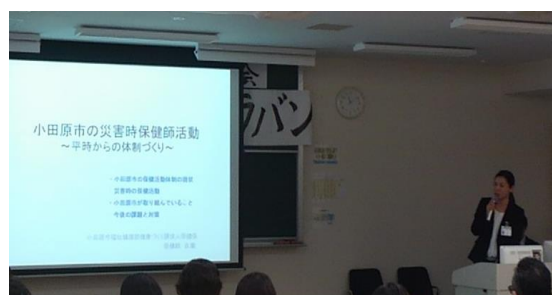
(公社)神奈川県理学療法士会 災害対策委員会  
県西地区災害対策キャラバンが開催されました。

災害対策委員会 下田 栄次

去る平成 28 年 2 月 28 日(日)国際医療福祉大学小田原キャンパスにおきまして「災害対策委員会 県西地区災害対策キャラバン」が開催されました。

昨年度より神奈川県内における二次医療圏域に準じた形で、本会独自に地域ブロックごとの災害時における連絡・調整担当(エリアコーディネーター)を配置しました。有事の際には、有効に機能する災害リハビリテーション支援ネットワークを構築していくために、鎌倉・大船地区、平塚・湘南西部地区、川崎北部地区に続く第 4 回目として県西地区を対象とした災害対策キャラバンを開催しました。

講師には小田原市防災対策課より伊藤康浩氏、健康づくり課より保健師の古瀬薫氏に加え、パキスタンや中国といった国内外における災害支援経験をもつ三浦和氏を迎え、小田原市地域防災計画を中心に災害時の支援体制について(伊藤氏)、保健師の具体的な平時の地域保健活動から災害時要援護者支援体制について(古瀬氏)、避難所や福祉避難所におけるリハビリテーションとの連携について(三浦氏)お話をいただきました。



平成 23 年の東日本大震災においては、被災地全体の死者数のうち 65 才以上の高齢者の死者数は約 6 割であり、障がい者の死亡率は被災住民全体の死亡率の約 2 倍に上るといわれています。災害への対応能力の弱い要配慮者は、情報の入手や自力での避難が困難なため、大きな被害を受ける可能性が高く、支援体制を構築することが急務となっています。小田原市では「小田原市要配慮者支援マニュアル」を策定し、平常時からの災害発生への備えや災害発生後の初動体制の充実に向けた取り組みが地域ぐるみで行われています。伊藤氏からは「自分自身が被災者にならないように！」と自分、そして家族を守るための防災のポイントについてお話をいただきました。古瀬氏からは、住民の方に対するさまざまな健康支援が災害時の対応にもつながる事の重要性について、三浦氏からは、避難所や福祉避難所のリハビリテーション職種の積極的な活用について、その必要性を強く訴えられていました。

また今回は目玉企画として、別ブースにて小田原市における災害関連情報の展示に加え、災害時便利グッズ(非常用トイレ・防災用品)や福祉用具の展示、講演後に横瀬英里子氏による段ボールベッドの展開デモンストレーションも行いました。他職種関連団体の取り組みを知る、防災用品や災害時に役立つさまざまな生活環境支援用品に触れる機会となりました。



当会県西地区ブロック長(エリアコーディネーター兼務)として事前の打ち合わせから積極的な広報をしていただきました前田大助氏、会場の手配・調整を引き受けてくださいました国際医療福祉大学小田原キャンパスの三浦和氏と当日の運営を手伝っていただいたスタッフの皆さまも本当にありがとうございました。

次年度も災害対策研修会と各ブロックを対象にした災害対策キャラバンを予定しています。より多くの方々のご参加をお願い致します。